



京大を7回受けるまでに、  
やったこと。

---

英検1級合格の塾講師が、  
京大を受けると、どうなる  
か？

---

高木繁美

---

文系人間が「数Ⅲ」をマスターするまでのこと。



私の亡き父はウザかった。高校入試の合格発表についてきたし、就職したら2時間以上かけて勤務していた塾まで挨拶にきた。

高校2年生の時までは、理系に進むつもりだった。ロボットを作りたかった。しかし、四日市高校は当時男子の割合が高くて男子クラスがあり、私はその男子クラスに放り込まれた。

今もその傾向があるが、当時も男子生徒は理系が多くて私はその中で理系に行くのが当然だと思って勉強していたが、数学の勉強を始めるとめまいがするような感じがし始めた。

それは、公式の成り立ちを納得していないのに無理やり使わされることに生理的な拒否感が生まれたらしい。模試の結果によると、文系なら難関国立大に合格できるけれど、理系だとそこまではムリという結果。泣く泣く「教育学部」に進むことになった。

生きていくには英語講師になるしか選択の余地はなかった。しかし、その英語でも真摯に向き合うと問題だらけだった。

最初に

「何かおかしいぞ」

と気づいたのは、1982年にアメリカのユタ州ローガン中学校で社会の授業をしている時。同席していたネイティブの教師が、しばしば私の授業を中断して生徒に向かって説明し始めた。

「ミスタータカギが今使った単語の意味はね、ーー」

と解説を始めた。それで、一番仲のよかった理科教師のアランに

「なんで私の授業を中断するのかな？」

と相談したら

「お前の英語は綺麗だけど、ビッグワードを使いすぎなんだ」

とアドバイスをくれた。それで、注意して職員室の会話などを聞いていると、確かに中学レベルの英語を使っている。自分が受験勉強で習った難解な単語など全く出てこない。

**not more than** と **no more than** の違いなど、使わないのだからどうでもよかった。私の塾生たちは、高校で与えられた「システム英単語」を使って単語をいっぱい覚えているが、多分ムダになる。

アメリカから帰国した私は公的な資格を取ろうと思って、とりあえず英検1級の過去問を書店で入手した。そして、知らない単語や表現を見つけてウンザリした。

もはや、高校生の時のように

「頑張って勉強しないと」

と自分を責める気になれなかった。私はネイティブの助けを借りて問題を解き始めたが

「これは何だ？なんで、日本人のお前がこんなものを」

と言う。それで、

「どういう意味？」

と尋ねると

「こりゃ、シェークスピアの時代の英語だよ」

と笑っていた。

しかし、アメリカから名古屋にある7つの予備校、塾、専門学校に履歴書を送付しても全て無視されたので、私は日本の英語業界で認知されている資格を取らざるをえなかった。

事実、英検1級を取ったらどの予備校、塾、専門学校も返事が来るようになった。結局、コンピューター総合学園HAL、名古屋ビジネス専門学校、河合塾学園、名古屋外国語専門学校などで14年間非常勤講師をすることになった。

その間に会った英語講師の方たちの中に、英検1級を持っている人はいなかったし、旧帝卒の講師の方もいなかった。資格を持たないと雇ってもらえないという私の見方は誤っていた。

私はその頃には受験英語を捨てていた。どの資格試験の英作文も面接試験も、すべてアメリカで使っていた英語で通した。つまり、中学生レベルの英語を使って難解な内容を表現する英語だった。

ところが、今はまた受験英語を指導している。高校の入試問題も、大学の入試問題も30年前から何も変わっていないのだ。受験参考書の構文も、相変わらず **take it for granted that** や **not until** の世界なのだ。

日本にやってくるALTが増えて、

「日本の教科書はクソだ」

とか

「英語が話せない教師が英語を教えている！」

と言っても誰も耳を貸さない。そして、偏差値追放、小学校から英語を、と意味不明の政策を打ち出す。私のいる予備校、塾業界も暴走族講師やらマドンナ講師やらパフォーマンスばかり。

そして、それをマスコミが煽る。賢い生徒はあきれ返って「マスゴミ」と揶揄している。

しかし、一体いつまでこのようなバカな状況が続くのか。

でも、本当に英語教育界にまともな人はいないのだろうか？私が四日市高校や名古屋大学の教育学部で出会った学生の中にはまともな人もいた。それで、日本一レベルが高い東大や京大を受けてみることにした。

京大は英語の試験が和訳と英作文という珍しい大学だ。それで、まず「京大模試」とZ会の「京大即応」を受講してみた。京大模試は河合、駿台、代ゼミなどを10回。Z会は8年間や

って、じっくり研究してみた。

ランキングに載り、Z会からは「六段認定証」というのももらったが、毎回の添削は納得がいかなかった。京大模試の採点も同様だ。それで、

「いったい、だれが採点してんだ？」

と思い調べてみた。しかし、企業秘密で分からない。ただ、自分が勤務していた予備校の講師レベルだろうとは推測できた。受験参考書どおりの訂正がなされていたからだ。

京大を受けた時は、最初の2回は「受験英語」で書いてみた。すると、6割正解くらいだった。私の英語がそんなレベルであるはずがない。それで、次の2回は「資格試験」の参考書に書いてあったような古い口語で書いてみた。それでも、7割くらいの正解率だった。それで、最後の3回はアメリカで使っていたような中学レベルの英語で書いてみた。すると、8割正解に跳ね上がったではないか。

やっぱり、京大の先生は一流だ（笑）。

私の指導させてもらっている優秀な生徒も同じ感想を持っているらしい。

「あの先生は、自分で京大を受けたら確実に落ちる」

と、京大医学部に合格した子が言っていた。それで、

「この子たちなら、私の言うことが分かる」

と、英語の添削を始めた。

すると、やっぱりというか次々と京大合格者が出始めた。それだけで

はない。京大医学部、阪大医学部、名大医学部、東京医科歯科大学、三重大医学部など、どこにも有効なのだ。

大学の先生は、やっぱり賢い（笑）。

でも、そんなことを言ったら蛇蝎のごとく嫌われた。日本は和を重んじるだけで、議論をさせないプレッシャーが半端ない。

みんな食っていかないといけないので、英語が話せなくても、生徒が志望校に落ちても、そんなこと関係ない。自分の生活が優先。そういうことらしい。でも、それで犠牲になる生徒たちはどうなるのだ。大人の責任を放棄していることにならないか？

北勢中学校にいる時は英語が一番嫌いだった。点数もよくなかった。数学は理科、社会、国語と同じで特に意識した科目ではなかった。総合点でトップクラスにいたので、それで満足だった。

試行錯誤を繰り返す私に父は

「大学院に行きたいならお金は出してやるぞ」

などと言った。

数学に対する執着は残っていた。

最初に

「ボクは数学が苦手なのだろうか？」

と疑問を持ち始めたのは、四日市高校の2年生の頃。1970年代の四日市高校は男子の割合が大きく、男子クラスがあり私は男子クラスに在籍していた。

当時、男子は理系に進むのが大多数だった。その中であって、テストの度に数学が壊滅的な点数になっていた。全国の模試なら、そこそこでも四日市高校の男子クラスではどうしても周囲の子と点数を比較してしまう。平均点と比べてしまう。

点数だけでもない。三角関数、対数、微積分と進むにつれて

「もうボクの頭には入りきれない」

と友人にぼやいていたのを思い出す。物理で13点を取り、

「こんなのありえない！」

とショックを受けて、クシャクシャにして捨ててしまった。私は数学の公式を使う場合に、

「証明できないと、使う気になれない」

というタイプだった。今思うと、それでは前に進めない。結局、自分が何をやっているのかわからなくなり気持ちが混乱し始めた。そして、1974年の大学受験の5日前を迎えた。

2階の勉強部屋で数学の勉強をしていたら、突然手足が震え始めて椅子からズリ落ちてしまった。そして、

「お父さん、ボク変だ」

と叫んだ。二階に駆け上がって来た父は、ひっくり返った亀のように手足をバタバタしている私を見て

「お前、何をしてんだ」

と言った。そして、近くの総合病院に担ぎ込まれた。

病院の看護婦さんは、私の手足を押さえつけながら

「アレ？高木くん、どうしたの？」

と言った。北勢中学校の体操部の先輩だった。

診断は、神経衰弱。いわゆるノイローゼとのことだった。私は頭が狂うことを心配したが、医者が言うには

「そういう人もいるが、身体に症状が出る人もいる」

とのことだった。

そうした経験を通して

「自分は、どうも文系人間らしい」

と覚悟した。それで、名古屋大学「教育学部」で勉強している時に

「自分は先生かなあ」

とボンヤリ思っていた。それで、卒業後は英語講師として勤務を始めた。数学に触れるのは、自分にとってタブーになっていた。それから、20年ほどひたすら英語の勉強をしていて数学は求められて中学レベルだけ指導をしていた。民間では、英語講師だけでは仕事を得られないのだ。

ところが、自分で塾を始めると

「明日は理科なのに、英語の授業ですか？」

と生徒から文句が出始めた。それで、英語、数学について、理科、社会、国語の指導もせざるをえなくなった。

そのうち優秀な子が来ると、高田、東海、灘、ラサールなどの難関高校の数学の過去問にも手を出さざるを得なくなった。そして、ある日気がついた。

そういう優秀な子は

「高校に入っても指導をお願いできませんか？」

とリクエストが入り始めた。最初は、英語だけという約束だったのに中学生と同じで数学の質問も入り始めた。

それで、考えた。

「灘高の入試問題の数学が解ける私なら高校数学も大丈夫かな？」

と考えた。

「高校クラスも作りたいし、試してみる価値はあるかな」

と思って、近所の本屋さんに行って高校数学の参考書・問題集の棚を見た。なつかしい「オリジナル」が目に入った。四日市高校の悪夢が蘇った。

それで、恐る恐る手にとって中身をのぞいて見た。ひっくり返ってから25年以上が過ぎていた。まだトラウマがあり、手が震えた（笑）。しかし、驚いたことに、25年前の記憶が残っておりどんどん解けた。

中学の数学を徹底的に教え込んでいるうちに基礎が固まったのか、中年になって精神が鍛えられたのか、よく分からない。とにかく、「オリジナル」を2周、「一対一」も2周、「チェック&リピート」も2周、「京大の数学」も2周。並行してZ会の「京大即応」を8年間やり続けた。

その間に腕試しに「京大模試」を10回、「センター試験」を10回、「京大二次」を7回受けた。

そのくらいやらないと、優秀な生徒の指導には役立たない。成績開示をしたら、京大数学で7割正解だった。「暁6」の特待生、「国際科」の上位の子を指導しても困らなくなった。

しかし、そういう点数の問題だけではない。自分の中で大きな変化が起きた。数学アレルギーが全く消えた。トラウマが消えた。怖くなくなった。今では

「まあ、たいていの問題は質問されても困らないだろう」

とリラックスして授業に臨める。当塾は、大規模塾のように準備した授業を一方向的に話すスタイルではなく、生徒の質問に答える形式なので常に本番なのだ。

今では、英語より数学の方がはるかに面白いと思える。だから、私は19歳の時点で「文系」「理系」に分類することに疑問を持っている。人間はそんなに簡単に分類できるものではない。

文系だった私が今では

「この世の現象は数式で表現されない限り、分かったと言えない」

と信じている。これは、完全に理系の発想だろう。

学校では習わなかった「数学3」も独学で勉強している。そうこうしているうちに30年も過ぎてしまった。まさに、

「少年老い易く学成り難し」だ。

ただ、分かったことがある。私は自分の指導させてもらっている理系女子のような才能はないのだけれど、人の何倍も苦労して数学を身につけたために「生徒はどこでつまづきやすいのか」が

よく分かるようになった。これは、数学講師としてはスゴイ武器になるのだ。

ひっくり返って、病院送りになったり、受験会場で不審者扱いを受けて入場拒否をされたり、みっともないことが多かった。お世話になったホテルの人も最初は送迎バスは父兄は乗れないと勘違いしてみえた。

しかし、それもこれも必要なことだった。

「とても頭に入らない」が「わかる！」に変わる瞬間を知った。

こうして、今は英語と数学の両方が指導できる講師として重宝されている。

考えてみると、高校生の時に吐きそうな思いで数式を見ていた時から30年が経過した。高校生の方は私もそうであったように2年後、3年後しか見えていないはず。そりゃ、そうだ。私もまさか自分がアメリカで生活したり、数学IIIを勉強するハメになるなんて予想ができるはずがなかった。

父は亡くなる前に自分が大学入試に落ちた話をしていた。戦争で中国に行ったとも言っていた。大学に行って戦争に行くのを避けようとしたのだろうか。今となっては分からない。

私の進学に強い関心を示していたのは、自分の原体験があったのかもしれない。もっと優しく接していたらよかったが、もう遅い。

皆さんも、今の段階では想像も出来ない経験をするはず。私たちがネット社会の到来に驚いたように、時代も激変を繰り返すだろう。そんな高校生の方たちに言えることがあるとすると、ありきたりだけれど

「目の前のやるべきことに全力を尽くすこと」

くらいだろう。それは、自分自身にも言えることだが。

そして、ご両親を大切にしてください。

平成23年度入学試験成績

試験日程： 前期日程  
 受験学部： 教育学部（文系）  
 （学科）  
 （専攻）  
 受験番号： 0016

大学入試センター試験		個別学力検査等	
国語	40 (160/200)	国語	85.33 (64/150)
地理歴史	16 (64/100)	地理歴史	42 (42/100)
公民	21.75 (87/100)	数学	105 (105/150)
数学	39.25 (157/200)	理科	
理科	36 (72/100)	外国語	153.33 (115/150)
外国語	46 (230/※)	論文	
		論述	
		面接	
総点		584.66	